



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 295
October
2017

トピックス

ADRC客員研究員 レポート

ハスミク・キラコシアン
(アルメニア)

カラン マーク ギル プ
ラーン (フィリピン)

インターンレポート

守本和由

●ADRC客員研究員レポート

ハスミク・キラコシアン (アルメニア)

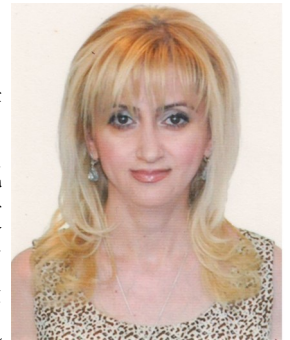
私はアルメニアから参りましたハスミクと申します。非常事態省の西部地震保護の人口センターの心理学者として働き始め、現在は非常事態省地震保護庁で主席専門官とし勤務しております。

アルメニアは、ユーラシア大陸、南コーカサス地域の主権国家です。西にトルコ、北にグルジア、東にアゼルバイジャン、南にイランとナヒチェヴァン自治共和国と国境を接しています。自然・人為災害

(海難事故を除く)が多い国のひとつですが、アルメニアに一番甚大な被害をもたらした災害は、地震です。スピタク地震(1998年12月7日)は歴史的に最も大規模な災害で、25,000人以上がこの地震により亡くなりました。

これら災害からの被害を抑制させるために、防災教育などの防災対策は、私が所属する非常事態省において重要な活動となっています。私個人としては非常事態省で主に、防災・危機管理に関する仕事をしておりますが、私が所属する部署では、一般の市民を対象とした社会心理に関する研究も実施しています。また、非常事態省では、地震災害に関連する法整備も行っています。

アジア防災センターのミッションは、メンバー国の防災能力の強化、人々が安心して暮らせる地域づくり、持続可能な開発を可能にする社会づくりです。アルメニアでは、持続可能な開発にむけて、日々進歩している世界の専門的技術を多くを学んでいくことが求められています。ADRCの客員研究員プログラムに参加し、防災の知識や技術を得ることは、母国であるアルメニアのミレニアム開発目標(MDGs)の実現にも貢献できると確信しております。



カラン マーク ギル プラーン (フィリピン)

マブハイ！(フィリピンのこんにちは)私はフィリピン国防市民防衛局(OCD)のマークと申します。私はOCDで民間防衛アシスタントとして働くとともに、OCDの国家災害リスク軽減管理評議会(NDRRMC)の事務局も努めています。OCDはNDRRMCの事務局として、フィリピンの包括的な国家市民防衛と災害リスク軽減及び管理(DRRM)プログラムを推進・管理しており、2020年までにDRRMの中心的役割を担うことを目指しています。

現在、私はブタン市(Butuan)にあるカラガ地域センターに勤務しています。この地域は5つの郡と1中核都市、5つの都市、67自治体と1,310のバラングイという小さな地方自治から構成されています。

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2017

続き

2008年以降、私はフィリピン政府でワークショップや会議などを通して防災知識を習得し、防災の啓発活動に取り組んできました。これにより、防災計画、人材育成などを行う民間防衛アシスタントとして任命され、インシデント・コマンド・システム(ICS)などの研修コースにおける実施状況の管理などをおこなっています。OCD提供の様々な防災能力構築活動や研修プログラムの実施にあたり、ローカル防災協議会(LDRRMCs)や地域防災協議会(RDRRMC)の構成者と密接に働いています。また、カラガ地域における防災能力向上活動や研修や防災関連計画策定の技術支援やリソースを提供するも私の業務の一つです。



最後になりますが、日本における防災分野の優良事例や技術を学ぶ機会を与えてくれたADRCと日本政府に心から感謝します。私の研究活動が、ADRCやフィリピンOCDへの貢献として、少しでも役立ち、フィリピンの持続可能な開発の促進に向けて、有益な一歩となることを願います。

●ADRCインターンレポート

ADRC インターンシップ (守本和由)

はじめまして。関西大学社会安全学部3回生の守本和由と申します。この度、2017年9月11日から15日までインターンシップとして、ADRCで勤務させていただきました。大学では、自然災害や社会災害について学んでおり、その中でも私は防災・復興・安全に関する都市の空間デザインや計画策定を専攻しています。私が2回生の頃、語学留学でフィリピンに行った際に地震を経験し、それから国内だけでなく世界各国の災害リスクや防災活動にもより一層興味を持つようになりました。そのため、ADRCで英語を交えて世界中の災害関連の業務に携われたことは、大変貴重な経験となりました。



今回のインターンシップでは、災害情報データの更新作業やACDR(アジア防災会議)の開催準備、IRPといった他機関の見学、さらにはADRCやIRPの所員によるプレゼンテーションに参加させていただきました。ADRCを含め、周辺に設立している様々な防災に関する分野の機関が連携して国際的な防災活動に取り組まれていることがわかりました。また、VRの方々との交流だけでなくプレゼンテーションでも英語でのコミュニケーションを取る機会が多々あり、非常に充実した5日間を送ることができました。

5日間という短い期間でしたが日々多くのことを学ぶことができ、この経験したことを今後に生かしたいと思います。

最後になりましたが、今回このような機会をいただいた、ADRCおよび関西大学に心より感謝を申し上げます。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。